

○本日は、生徒会会長、副会長を決めるための立会演説会及び選挙のためにお集まりいただきました。

○はじめに、世の中の選挙の話題から、若者の選挙離れについて、触れてみたいと思います。

○20歳代の人たちが、どのくらい国政選挙に知っているのか調べてみると、30～40%のようです。私自身も若い頃には、選挙に行かなかったこともありましたが、気持ちはよく分かります。恐らく、

- ・何十万票の中の1票ぐらい、あってもなくても大勢に影響がない。
- ・誰が当選しても政治は変わらないから、自分の生活に影響はない。
- ・選挙に行った方が良いのは分かっているが、大きな影響がないのだから、自分の仕事や趣味や生活など直接的な利益を優先したい。

こんなところなのかなと思います。

○国全体で見ると、

20歳代の有権者数は、1,500万人ですが、有効投票数は500万票です。

一方、75歳以上の有権者数は、1,200万人だが、有効投票数は700万票です。

政治家が、当選したいと思ったら、投票者数が200万人も多い、老人に手厚い政策を掲げたほうが有利ですね。

○ですから、極端な話、たとえ白紙でも、鉛筆を倒して投候補者を選んでも、とにかく投票して若者世代の影響力を、政党や候補者に対して強めなければ、若者世代が優遇される政策をしてくれる政党はでてこないわけです。

○早稲田大学の森川友義（とものり）教授の試算によれば、60歳以上にたいして20歳代の若者は、4,000万円の不利益をこうむる見込みだといえます。

つまり、自分が支払った生涯の税金に対して、60歳以上は、1,500万円くらい余計に自分がサービスを受けることができるのに、20歳台の若者は、払う見込みの額より、2,500万円分も低くしか恩恵を受けられないということです。これからは、少ない若者が、大勢の老人を支えなくてはならない構造ですから、今後益々この金額差が大きくなっていく見込みだと言います。

○この話を、うちの選挙に行かない子にしたら、そのときから「白票でも行った方がよいよね」と言って、行くようになりました。

皆さんも近い将来、選挙権を得た時には、この話を思い出していただければと思います。

○さて、話が長くなりましたが、本校の話に戻ります。生徒会長、副会長候補者として4名の方に立候補していただきました。どうしようかとまよったのではないかと思います。皆のために一肌脱ごうと立候補した4名に、まずは敬意を表したいと思います。当選した暁には、生徒会のため、そして自分自身の充実のため、がんばっていただきたいと思います。

○また、選挙を行う方の皆さんですが、先ほどの選挙の話ではありませんから白票はだめですよ。みなさんの生徒会のために立候補してくれた人たちを応援するつもりで投票してください。

とは言ってもでたらめに○をつけるのではなく、会長、副会長に相応しいかどうか、よく話を聞いた上で誠意を持って投票してください。それでは、有意義な生徒会選挙になりますよう期待しまして、私の挨拶とします。

※森川友義「若者は、選挙に行かないせいで、4,000万円も損してる」ディスカヴァー携書（2009）より